

第20回 がん市民講演会 がんと共に生きる～必要な知識と心構え～

地域がん診療連携拠点病院として、市民の皆さまを対象にがん医療に対する正しい知識の普及を目的に「第20回がん市民公開講演会」を開催致しますので、ぜひご参加ください。

日時 2019年7月13日(土)
 14:00～16:00 (受付13:30)

会場 ホテル京都エミナース
 3F「平安の間」(定員80名)
 京都市西京区大原野東境谷町2-4 TEL.075-332-5800

お申込み

①住所 ②氏名 ③電話番号 ④参加人数 ⑤がんの個別相談をご希望の方は「がん相談希望」とご記入のうえ、はがき・FAX・メールでお申込み下さい。聴講券をお送りします。(7月5日(金)必着)
 ※「がんの個別相談」は先着6組です。ご相談を受けられる方には、事前に簡単な内容を確認させていただくため、こちらからご連絡いたします。

講演内容 **参加無料**

講演Ⅰ 「正しいがん情報のさがし方」
 国立がん研究センター
 がん対策情報センター センター長 若尾 文彦先生

**講演Ⅱ 「未来への礎を創る力
 ～がん体験から私が受け取ったもの～」**
 がん患者グループ ゆずりは 代表 宮本 直治氏

相談会 がん相談員による個別がん相談会 事前申込先着6組

お問合せ

〒615-8256 京都市西京区山田平尾町17
京都桂病院 庶務課
 TEL.075-391-5811(代) FAX.075-381-4224
 E-mail. gan-support@katsura.com

がんサロン「きずな」 開設10周年記念講演会 & 読売日本交響楽団「ハートフルコンサート」

参加費無料 [定員100名様]

日時 2019年6月20日(木)
 14:00～16:00 (開場13:30)

会場 京都桂病院 ホール

『がん患者団体、患者支援団体の活動について』
 NPO法人京都がん医療を考える会 理事長 清田 政孝氏
 京都府がん患者団体連絡協議会 役員

第1部 『がんサロン「きずな」の紹介』 京都桂病院 入江 篤志
『ピアサポーターから一言』 がんサロン「きずな」ピアサポーター

第2部 読売日本交響楽団『ハートフルコンサート』
 公益財団法人 正力厚生会助成事業

申込方法

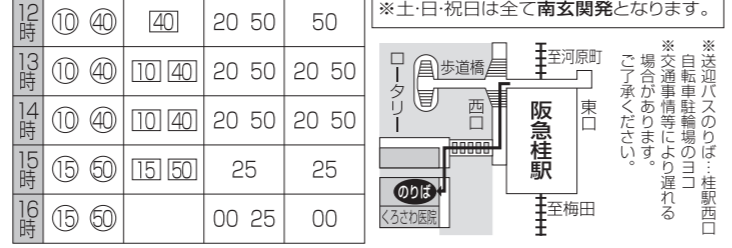
①住所 ②氏名 ③電話番号 ④参加人数をお書きのうえ、下記宛先まではがきまたはFAX・メールでお送り下さい。聴講券をお送りします。(6月12日(水)必着)

お申し込み お問合せ

〒615-8256 京都市西京区山田平尾町17
京都桂病院 庶務課
 TEL.075-391-5811(代) FAX.075-381-4224
 E-mail. gan-support@katsura.com

病院専用バス時刻表

JR 桂川駅前					阪急桂駅前(西口)						
時間	病院発	JR桂川駅発	時間	病院発	JR桂川駅発	時間	病院発	桂駅(西口)発	時間	病院発	桂駅(西口)発
	月～金曜日	月～金曜日		月～金曜日	月～金曜日		月～金曜日	土・日・祝		月～金曜日	土・日・祝
7時	30	00 55	12時	20	40	17時	10	40	7時	10 45	25
8時	30	50	13時	20	40	18時	10	40	8時	20	00 35
9時	20	40	14時	20	40	19時	10		9時	10 40	20 50
10時	20	40	15時						10時	10 40	20 50
11時	20	40	16時	10	40				11時	10 40	20 50
									12時	10 40	40 20 50 50
									13時	10 40	10 40 20 50 20 50
									14時	10 40	10 40 20 50 20 50
									15時	15 50	15 50 25 25
									16時	15 50	00 25 00



桂・ニュース

KATSURA NEWS

基本理念
 私たちは、患者さんの人権を尊重し、地域に必要な基幹的中心的な医療を担当すると共に、さらに高次の医療に対応できるよう努力します。

社会福祉法人 京都社会事業財団 京都桂病院

NO.279
 2019・6・1
 毎月1回・1日発行
 〒615-8256 京都市西京区山田平尾町17
 TEL.075-391-5811(代)

編集:広報課
 印刷:(有)アクト

京都桂病院ホームページ
<http://www.katsura.com>

熱中症は発症予防と早期認知が大事!

地球温暖化・異常気象や都市部のヒートアイランド現象等により、熱中症発生傷病数は年々増加傾向です。特に昨年は猛暑の影響で多くの地域で過去最高の傷病者数が記録されています。熱中症の発生患者は例年6月下旬から増えていきます。本稿で熱中症について学び、今年の夏は適切な予防と対応を行いましょう。

熱中症の定義は、「暑熱環境における身体適応障害によって発生する状態の総称」です。暑熱環境という外的要素が原因なので、予防が最も大切であることをまず認識して下さい。小児や高齢者は症状が乏しいことも少なくないため特に予防が重要です。熱中症は高気温だけでなく、湿度・風速・輻射熱も大事な要素です。それらを複合的に数値化した暑さ指数(WBGT)が熱中症の発生しやすさに最も反映していると言われています。環境省熱中症予防サイトで毎日のWBGTを確認できますので参考にして下さい。WBGTが25℃以上になると熱中症の危険が増しますので、長時間の屋外での活動を控えた方が良いでしょう。また、暑熱環境下で外出、活動をしなければいけない場合は、多量に発汗するため、水分だけでなく塩分も忘れずに摂取することを忘れないで下さい。水分のみの摂取では低ナトリウム血症をより助長して、更に体調が悪化する可能性がありますので注意しましょう。

予防に次いで早期認知が大事です。熱中症はI度(軽症)、II度(中等症)、III度(重症)に分類されます。I度は意識障害を認めず、失神・大量発汗・こむら返り・筋肉痛等の症状が現れます。II度は頭痛、嘔吐、倦怠感、集中力や判断力の低下等の症状が現れます。III度は発汗が停止し、中枢神経障害、肝腎障害、血液凝固障害等の臓器不全症状が現れ、集中治療を要します。II度、III度の分類は検査を要しますので、II度以上と疑われた場合は医療機関の受診が必要です。I度であったとしても、現場での応急処置に対する反応が乏しい場合は、医療機関の受診を要します。特に意識障害や39℃以上の高体温を伴う場合は、救急車を要請し、直ぐに治療が必要となります。

医療機関への受診の有無に関わらず、熱中症を疑った場合、現場で応急処置をすることも心掛けましょう。熱中症の主な病態は体温上昇と脱水に伴うものです。涼しい場所への避難、濡れた衣類の脱衣、脇・ふとももの付け根・頭頸部に氷嚢を当てることによる身体の冷却に努めます。経口摂取が可能であれば、市販の経口補水液等を利用して水分+塩分を補給することで脱水の改善を図ります。

熱中症は予防できる疾病です。正しい知識を持ってますます暑くなる夏を乗り越えましょう。



入場無料 京都桂病院 土曜コンサート

今回は、岡野友紀さん(ピアノ)、山田千春さん(ヴァイオリン)、二俣結貴さん(声楽)によるソロと、3人での演奏をお楽しみいただけます。

入院されている患者さんだけでなく、外来へ通院中の方・在宅で療養されている方・そして地域の皆様もぜひご鑑賞ください。

日時: 7月20日(土) 午後2時～3時
会場: 外来棟1階ロビーにて(※事前予約は不要です)

曲目:

- ◆ グラームス/7つの幻想曲 Op.116より抜粋
- ◆ プッチーニ/歌劇「ラ・ボエーム」より Mi chiamano Mimì (私の名はミミ)
- ◆ ふるさと etc.

お楽しみに!